

「祝福の約束」

創世記 15:5-6

■ 2016年…

神様がこの2016年という中に大きな御計画をもっておられ、新しい門を開いて下さり新しい御業をなして下さることを信じます。一人一人、教会、地域… etc 神様が新しい門を開いて新しい祝福を注いで下さる所へと一歩踏み出す年になると信じます。

■ ネパールの地で…

この御言葉が与えられたのは、ちょうど父が天に帰った後でした。父が天に帰った時、私はネパールにいました。余命半年～一年と聞いていたので、まさかこんなにあっという間に天に帰ってしまうとは思っていませんでした。ネパール宣教旅行はずっと計画されていたもので、中高生を連れて26名でネパールに行くツアーでした。7時間の登山をして山岳部族の人に福音を伝えるということで水道・ガス・電気がないところで2泊するという過酷なツアーでした。ネパールの山の上で、父が天に帰ったことは本当に神様ご自身の計画だったと思いつつも本当に悲しかったんですね。そんな中、ミッションをやり遂げて賛美集会が終わって、ふと天を見上げてみたら私の人生の中で見たことのないような星空でした。「星ってこんなにあるんだ…！すごいな…！」と思って見ていた時に今日のこの創世記の御言葉が心にきました。数えきれないほどの祝福がこれからあなたがたに、日本に与えられるというという神様からの約束の御言葉として受け止めました。

■ 父・滝元明…

父は私にとってアブラハムのような存在でした。よく父が言っていました。「アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神、滝元明の神！そう言っただけは祈るんだ。」信仰をもって鉱山の土方から始まって日本のリバイバルということを目ざして日本を愛してその働きを進めてきたアブラハムのような存在だった父が天に帰るということで、昨年はある意味怒涛の一年でしたが神様の計画の一年だったと本当に信じています。父が癌宣告を受けて最初に行った言葉が「素晴らしいな！」という言葉でした。イエス様を信じれば天国へ行ける！私たちはこの事実を頂いています。父はいよいよ自分が天に帰るという時にこの喜びに本当に満たされていました。

■ 祈りの中で…

父が癌宣告を受けたのが7/7で、その二日後の7/9に父は山に行き祈りたいと言いました。この山は大きな大会があると必ず父が行って祈っていた場所です。狐や狸、猪がいるような場所でしたが、夜を徹して朝まで祈って始発で帰るといふことをよくしていました。そこに行ってもう一度祈りたいという父と昼間雨の降る中一緒に行きました。父が自分があとどれだけ生きるのかということに神様に祈っている間、私は本当に命がけで「主よ！癒して下さい！」と祈りました。そして、祈り終わってから父にイエス様は何と言われたかを聞くと、「命のことは私に任せなさい。永遠の命を伝えるために働きなさいと言われた。」と父は言いました。「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」(ヨハ3:16) 私たちはイエス様を信じたなら永遠の命を持つことができる。死そのものが勝利するということがこの人生にとってどんなに大きなものかということをお自身更に分かることができました。そして、父の死の中で信じることの大切さを更に教えられました。

父と山に登った2日後に一人の兄弟と一緒に私はまた山に登って祈りました。父に何か祈って来て欲しいことがないかと尋ねると「癌の悪魔をやっつけてきてくれ。」と父は言いました。そして、夜中、山で祈りました。聖書の中には「ですから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたから逃げ去ります。」(ヤコブ4:7)とあります。悪魔がいたら何処かに逃げて隠れなさいとは書いていません。私は徹底的に祈り、イエス様と共に悪魔と戦いました。信じ切って戦って祈って良かったと思います。「もし、祈って治らなかつ

たらどうするの？結局癒されないんじゃないの？」と人間的には思うかもしれませんが、神様は真実なお方で、祈りを完全に聞き遂げて下さるのです。

それから3週間もしないうちに父は天に帰りました。肝臓癌にやられて死んだように見えるんですがそうではありません。肝臓癌の悪魔は打ち破れましたが、本当に神様が命を握っておられて、神様の手の中で滝元明という85歳と11ヶ月の人生が8/1神様の時という中で喜びの内に天に帰ったのです。死が命に飲み込まれている…本当にすごいな！！と思いました。勝利と希望の凱旋だったと本当に感謝しています。

■ 永遠の命の光を掲げよう…

8/15に同刻プレイズを東京の公園の真ん中でしました。その中で、私は「私の父は2週間前に天に帰りました。けれど、父が癌宣告を受けて最初に行った言葉は『素晴らしいな！クリスチャンは素晴らしい！永遠の命を持っているって素晴らしい！』そんな父が喜びの内に天に帰りました。」と言いました。そうすると、たまたま自転車で通りがかって心地よい賛美の音に引き寄せられて足を止め、この言葉を聞いていたおじさんが、「こんな人生があるの！？今まで自分の人生、自分の死そのものについて真正面から向き合って永遠の命なんて考えたことなかったのに、そんな人生があるんだ。私もそのことを知りたい！」と言って来て下さったのです。今、私たちが与えられているこの永遠の命の光というものを上に置く時代がもう来ているんじゃないかと思えます。ですから、ぜひ、「イエス様を信じたなら天国に行ける！」この光を掲げてこの年を歩んで頂きたいと思えます。

■ 新しい世代へ神様の新しい計画が…

関東で開かれたZawamekiの集会に来られたある牧師先生が「私は今までの人生の中でこんなことは初めてです。滝元明先生が天に帰って自分の中の一本棒が抜けてしまった…。そんな思いがするんです。」と言われていました。私はこの言葉を聞いた時、父が天に帰ったことは単に一人の人間との別れという次元ではなくて、この日本のリバイバルという一つのことに対して本当に大きな節目だったんだということを感じ、その棒が一本抜けて終わりではなくて、主は新しい世代に対する新しい神様の計画があるこの2016年は本当に信じています。岡山に対して、日本に対して神様の御計画というものは測り知れないと信じています。

■ 神様の約束を受け取ろう…

アブラハムが数え切れない星を見て自分の子孫はこのようになる約束を受けたのは89歳の時。そして、約束が成就するのは100歳。約束を見るまでの10年以上のこの期間の中でアブラハムの信仰はますます強くなっていったことが聖書を見るとわかります。私たちも途中で諦めそうになったり、逃げたくなる時もアブラハムのように信仰に踏み留まることを願い、イエス様と共に、神様の家族と一緒に私たち一人一人に与えられている神様の約束を受け取っていきましょう！